

広島市は、外国人観光客らに被爆の実相を知ってもらうため、同市に点在する原爆関連遺構・施設を巡る「ピースツーリズム」のルート策定を進めている。今秋までにルートを正式に決め、遺構や施設の情報をスマートフォンなどで見られるようにする予定だ。



本川小の平和資料館に展示されたパネルを示し、被爆状況などを説明する吉岡克弥校長＝広島市

被爆… 外国人も知って

同市の平和記念公園。8月の炎天下、大勢の外国人がカメラを手に、園内の原爆ドームや平和記念資料館に足を運んでいった。で、12年に比べ4倍以上。16年のオバマ前米大統領の来訪を機に注目度が上がったという。外国人の大半は平和記念公園を訪れる。だが、ほかの被爆した小学校や病院、小規模な資料館など50カ所以上ある原爆関連の遺構・施設への訪問は1割に満たない。

ポロランド出身のピョートル・デイボウスキーさん(33)は「核の恐ろしさに驚いた。実際に使われたことが信じられない」。アイルランドから訪れたデボラ・マッカードルさん(51)も「被爆証言のビデオを見て、悲し

広島市、原爆遺構巡るルート策定へ

「核許さぬ世の中に」

くなった。核を許さない世の中になってほしい」と語った。

て考えを深めてもらいたい」といのがきっかけだ。核許さぬ世の中



市によると、2017年に広島市を観光で訪れた外国人は約152万人。市は昨年度から協議を始め、「被爆建造物」「文化・文学」「復興」「資料館」の四つのテーマに絞ったという。テーマに合った3〜14遺構・施設を徒歩、自転車などを利用して巡回できる6ルートを検討している。爆たのか。ここでしか分かる。(白杵大介)



平和記念公園を訪れた外国人観光客ら。オバマ前米大統領の来訪を機に、平和への関心が高まっているという＝広島市